鑑賞シート活用授業研究会

実践報告集 2007

監修：濱口由美

はじめに …… 2

「シーがる・た」の授業
國友 和恵　徳島市昭和小学校 …… 3
山本 敏子　徳島市加茂名南小学校 …… 4
川田 真紀　徳島市川内南小学校 …… 8
山中 真紀　徳島市加茂名南小学校 …… 9
鶴田 愛子　徳島市大松小学校 ……10
太田 裕子　徳島市北井上小学校 ……14
脇本 正久　吉野川市立川島小学校 ……16

番外編「シーがる・た」
濱口 由美　徳島市富田小学校 ……20
竹内 利夫　徳島県立近代美術館 ……22

しーがｅるたアートスクールの様子 ……23

資料（「鑑賞シート 指導の手引き」より転載）
基本的な流れ　……25
濱口 由美　「なぜ、鑑賞遊びなの」……26

鑑賞教育
推進プロ
ジェクト

徳島県立近代美術館
徳島市八万町向寺山 088-668-1088

はじめに

鑑賞シート「シーガルの人間像」を活用した授業実践の報告集をお届けします。別途配布している「鑑賞シート 指導の手引き」および鑑賞シートと合わせてご覧いただけたらと思います。

ここには、小学校２年生から６年生まで、それぞれの学年に合わせて工夫された授業の様子、鑑賞シートに対する感想や提言がまとめられています。その中には、このシートの軸となっている［鑑賞遊び］のプログラム＝「シーがる・た」の活動を通して、作品と真摯に向き合った子どもたちの足跡も、もちろん盛り込まれています。

お一人でも多くの先生方に鑑賞シートの活用が広まり、また意見交流の輪が生まれることを願っています。

「鑑賞シート活用授業研究会」について

徳島県立近代美術館では、平成14年に、現場教員、大学の研究者、学芸員によるチームで「鑑賞教育推進プロジェクト」を立ち上げ、鑑賞シートの開発に取り組んできました。これまで6種のシートを刊行しています。その普及とフィードバックをはかるため、平成18年7月に公開授業による第１回研究会を行いました。
（第１回の報告）　http://www.art.tokushima-ec.ed.jp/gakko/open1-top.html

続いて平成19年10月9日、第２回の授業体験による研究会を行ったところです。これは「しーがeる た アートスクール」と題して、教員が子どもの立場になって鑑賞活動を実体験するという、楽しい趣向で行われました。この報告集は、その参加者が各学級において授業を行い、後日その結果を持ち寄ってまとめたものです。

平成19年10月9日　第２回研究会－授業体験
↓
10月～ 12月　各授業実践
↓
12月22日　第３回研究会－事例交流

このような実践と交流により、何にも増して貴重な実感やヒントを参加者は相互に分かち合いました。これからも実践のネットワークが広がっていくことを心から期待しています。

平成20年1月
徳島県立近代美術館 鑑賞教育推進プロジェクト

実践報告の掲載は、見やすさを優先し順不同です。

実 践 報 告 しーがeる　た　アートスクール -第２回鑑賞シート活用授業研究会-	実施日　平成19年12月14日　時間（　5校時　） 学校名　徳島市昭和小学校 学　年　第２学年　人　数　27人（欠3人） 指導者　國 友 和 恵

１　授業の流れ　　２　実際の様子

１　授業の流れ	２　実際の様子
1　作品『ベンチに座るサングラスの女』と出会う。	1　「白い女の人」やベンチに関心を示す。
2　作者について知らせる。 〇名前はジョージ・シーガル 〇絵ではなく本物のように作っている	2　鑑賞シートの裏の作品を見てますます興味をもち，質問がふえる。 〇台所の用具に気づく。 〇『ラッシュアワー』は「なんか怖い。」
3　シーガルさんの「シーがる・た」の遊び方を知る。 〇７枚の読み札を読む。 〇みんなで１枚目の読み札をする。	3　「白い女の人」の部分写真が絵札になることを知る。 〇読み札を読んで，「分からん。難しい。」と不安がる。 〇いろいろな感じ方や自分と同じ考え方があることに気づき，多くの児童が意欲的に発言する。
4　他の読み札について個々にシートに記入する。	4　やり方が分かって自分で次々にシートに記入し，友だちのシートを見て情報交換を楽しむ。

３　「シーがる・た」の鑑賞遊びを取り入れてみて

1　学級の実態に合わせてシートを使った。＜絵札探しと読み札づくり＞

　児童の実態を考えると７枚の読み札全部をするには集中力が続かないと考え，生活科のカルタ遊びでしたように20~30分で何回かに分けて「シーがる・た」遊びをするようにした。

2　特別に支援が必要な児童にも楽しくできた。

　新しいことに不安を感じる児童や自己表現の苦手な児童が意欲的になるように，まずはみんなで取り組みいろいろな考えを出し合った。自分の感じたままが正解となる遊びであることが分かると，いつもは消極的な児童が関心を持ち，またやりたいと意欲を示していた。

3　国語科と関連づけて学習することができる。

　読み札の言葉から想像力をふくらませて作品を見つめ，それをみんなに伝えるために言葉を選んで理由や質問を発表するなど「話す・聞く」力の学習を意欲的にすることができた。また，読み札づくりにおいては，「書く」力を伸ばすことができる。

4　新しい出会いに感動する児童が多かった。

　シーガルのような作品と初めて出会う児童が多かった。「人が白い・・・。」と他の作品にも興味深そうに見ていた。後日，図工科「お話の絵」の時，友だちの作品鑑賞をして，人物の重なりを見つけ「この前の白い人も重なっとった。」と発言する児童に教師の方が驚かされた。また，一つの作品からいろいろな感じ方があることに気づく児童や，友だちの違う考えを認める心地よさに出会えた児童が多かった。

実践報告 しーがｅる　た　アートスクール －第２回鑑賞シート活用授業研究会－	実施日　平成 19 年 11 月 29 日，12 月 4，14 日　３時間 学校名　徳島市加茂名南小学校 学年　２学年　人数　３４名 指導者　山本　敏子

みんなでいっしょに「シーがる・た」の授業実践

１　授業の流れ	２　実際の様子
1　ベンチにすわっている女の人は何をしているのかな。（鑑賞シート p.1）	○　子どもたちの考えたこと ・休んでいる　・まわりを見ている ・ひなたぼっこ　・バスを待っている ・人をまっている　・考えている ・だれかと話をしてる ・ひざかけをかけている ・ジュースをのもうとしている ・ためいきをついている ・うで時計を見ている ・サングラスをかけている　など
2　シートにある読み札は他の学校のお友達がつくりました。そのことばから絵札をさがしてみよう。（鑑賞シート p.2-3）	○　絵札が当たったら，そのわけも言えるよう支援する。
3　私たちも絵札を選んでつくってみたいね。シート p.1 の右下にある読み札にことばを書いてみよう。　【図工１時間】	○　子どもたちはことばを書くことにも意欲をもってきた。 シートにどんどん書き始めた子もいた。 書きにくい子にはシートの例を参考にさせる。
4　この時間はみんなが読み札をつくって「シーが・るた遊び」をします。 絵札を選んで読み札をつくってみよう。 （画用紙でつくった読み札は一人３枚ずつ配布） （すでにシートに書き込んでいる子もいるので，その読み札を書いてもいいし，新しく考えたものでもよいことを知らせる。） その読み札を使ってクラスのみんなで「シーが・るた遊び」をする。 （鑑賞シート p.2-3） 【国語１時間】	○　１０分くらいの時間を取って読み札を書く。 ・きもちがいいね　しぜんのかぜは ・わたしの耳に　とりやむしたちのこえがする ・サンダルちぎれてどうしよう ・みまもっているよ　あぶないことしていないかな ・ゆびをけがしてバンドエードをはっている （子どもたちの書いた他の読み札は別紙参照。） ○　読み札を聞いて「絶対これ」と思っていたのに何人もが当たらないのもあって，返って子どもたちはすごく意欲的になってくるのと同時に友だちの見方や思いは違うことに気づいてきた。 みんなで活動して「シーが・るた」のやり方がわかったので，グループで取り組んだ。読み札を読む順番等は各グループで仲よく話し合って決めていた。「もっと読み札を書いていいですか。」ととても意欲的。

5　p.１の女の人を見てみよう。この女の人はどんなところにいるのだろうね。作品とお話しながらまわりをかいてみよう。 （フェルトペン，マジックペン，色鉛筆，パス等持っている描画材で描く。） （鑑賞シート p.1）	○　子どもたちは自分の体験や環境，空想を交えて作品と話しながら描いた。 まわりを描いたり，日記を書いたりは，子どもにとって一体的な活動であり意欲的。
夕日がきれいです。とても楽しくやっています。ふくかわいいですか。 （こうえん）にて	描画材では一番多く使ったのは身近に持っている色鉛筆。次にカラーフェルトペン。 クレパスは，このサイズや紙質ではぬりにくいと思ったのか数は少なかった。 クレパスでまわりを描いたシート
6　女の人になったつもりでお話を思いうかべて「シーがる日記」を書いてみよう。自分がそこにいたらどんな様子だと思う。 （鑑賞シート p.3）　【図工１時間】	○　子どもたちにとって絵と日記とは一体となってつながっているようで，絵をかき上げた子はどんどん日記を書いていった。 （子どもたちの書いた日記については別紙参照）
今後の活動 7　「シーがる・日記」やみんなが描いた絵を発表し合って楽しく見よう。 【国語１時間】	○　作品と対話して描いた絵や日記を発表し合いながら，自分の思いを伝えるとともに友だちの思いや見方を知って楽しむ。

３　「シーがる・た」の鑑賞遊びを取り入れてみて

- 図工と国語の合科的な扱いができるのがよい。低学年の子どもたちは教科の区別なく活動をしていることが多いので，他の先生方にも実践してもらいやすいのではないかと思う。
- 読み札から絵札をさがす活動を通して，作品の見方はいろいろな見方ができることに気づいた。
- 自分たちが読み札をつくることは，とても楽しい活動だったようで書ける子はどんどん書いていっていた。その読み札にも作品と向き合いながらも自分の経験や生活環境などを含めた表現があふれていた。読み札がなかなか書けない子もいるが，例が挙げられているのが参考になりよかった。
- 自分たちで読み札をつくり「シーがる・た」の活動はとても楽しく，友だちの見方や感じ方を共有する場であったと思う。クラス全体での活動後，グループに分かれても意欲的に取り組んでいた。
- まわりを描くとき，作品と対話しながら自分の経験や環境，空想を取り入れながら描いていたと思った。「シーがる・日記」も作品のまわりを描き終わった子どもは，どんどん日記を書いていた。先に作品と対話した中にあった経験や環境，空想などが日記にもあふれていたと思う。
- 子どもが書いた読み札や日記には，作品の中に自分が入って一体化しているものと客観的に第３者として書いているものがあり子どもたちの感じ方の違いが表れていた。
- 今回の「シーがる・た」の活動を通して感じたことは，子どもたちが本当に作品をじっくり見たということである。今後はまわりを描いた絵や日記を発表し合い，互いの思いや感じ方を共有し，ともに楽しんで作品を見たい。また本物の作品にぜひ子どもたちを出会わせてやりたい。

子どもたちの読み札から　　加茂名南小　２年２組

・きれいなけしきにサングラス
・きもちがいいね　しぜんの風は
・ベンチにすわって見ているの　しぜんをずっと見ているの
・とりのこえをきいてひとねむり
・きがたっています　いいきもち
・よこむきがお　かみをのばしてみているよ
・すわってる　足をつけてすましがお
・みまもっているよ　あぶないことをしていないかな
・とけいをみて　３時になったらかえろうよ
・わたしの耳に　とりやむしたちのこえがする
・かかとをあげて　石をのけよっと
・大きいサングラスをかけてベンチにすわっているの
・バスがおそいな　いつくるの
・このくつおもしろいくつでしょ　おきにいりのくつなの　このくつをはいてあの人をまっているの
・つかれてつかれて足をやすめるのをおいている
・なにかをみていたら　ねむっちゃった
・いすにすわっていいこと考えよう
・おきにいりのサングラスで　ねむっている
・サンダルをはいておでかけしようかな
・べんちにすわってけしきを見て　まあきれい
・わたしの口ぶえ　どうですか
・よくみてね　わたしのとけい　今なん時？
・うたをうたう　わたしのえがお
・とりのこえをきいて　ねむっちゃった
・サンダルちぎれて　どうしよう
・ゆびをけがしてバンドエードをはっている
・とけいがくもってふきましょう
・えがおがこぼれる　くやしさに思うさみしさも
・さんだるをはこうとしているのだ
・しぜんはとってもきれいだな
・べんちにすわってジュースをのもうとしている
・わたしのとけい　きれいでしょ
・公園で　ベンチにすわってきもちいい
・ずうっとまった　でもだれもこない
・まってるの　だれかくるのをまってるの
・ベンチでともだちをまっている
・うでどけい　いまはなんじかな
・ジュースをのもうとしているところだ
・べんちにすわってなやんでいる
・くつをはいて　ぴったりうれしい
・わたしのなみだ　こぼさないで
・さんぐらす　あたまにのせてかんがえている
・くびをうごかしてまわりのけしきをみる
・べんちにすわって　まわりをみている
・サングラス　あたまにのせてまっている
・まわりをみながらいねむりしてる
・かかとをあげて　ざぶとんひいている
・べんちにすわって　ゆめをみているよ

子どもたちのシーがる・日記から　　加茂名南小　２年２組

わたしはきれいな，ごしょくのにじをみています。赤とぴんくときいろとみどりと青のきれいなにじをみています。
（公園のひろば）にて

森のぼりして、ベンチにすわって、おべんとうを食べようと、たきの水しんせんできれいな水。木のきのみも食べてみようっと。休みをおわったらまたいこう。
（森のぼり）にて

のはらでともだちとおはなししているよ。木にりんごもあるよ。ベンチにすわってざぶとんひいているから、つめたくないよ。おともだちはとってもなかよし。
（公園のくさむら）にて

女の人が公園にいったらとってもしぜんが広がっていました。小鳥の声をきいていたらきれいなにじがありました。しぜんをみながらうっとりしているとたのしくなりました。
（公園）にて

わたしはべんちにすわってしぜんの中にすわっています。きもちがいいと思いました。だんだんにじがでてきました。
（のはら　）にて

きょう。ぼくは公園にいきました。
すべりだいに子ども三人がきました。
ほかにも虫の声が聞こえてきました。
（公園　）にて

くさをみてきれい。あたたかなお日さまみていました。
きょうは晴れの日、おや子の日。
（　　）にて

べんちすわって、草をみてみどりがきれいだなあと思っています。おひさまの赤もきれいだなあと思っています。
（はらっは）にて

わたしは夕日がきれいです。とても楽しくやっています。ふくかわいいですか。
（こうえん）にて

わたしはさくらの木やうめの木を見ているの。ほかにも池や山が見えるよ。青い空も見えるよ。
（こうえん）にて

わたしははれてるところでベンチにすわっておともだちまっている。おともだちなん人くるかな。三人かな、四人かなとおもいました。
（のはら）にて

わたしは花がたくさんあっていいきもちがする花がいいなとおもいました。わたしはとても花がだいすきです。
（おはなばたけ）にて

ぼくははれをくふうしました。はれとにじをくふうしたし、ぼくは冬のようすみたいにかきました。
（しぜんの中　）にて

ぼうしがふってきたり、ふうせんがとんできてかみなりとあめがふってきたりして、かさがないのではやく帰った。あらしみたいだった。かさもふってきてベンチがぬれた。さむかった。　きせつはあき
（たいふうののはら）にて

ぽかぽかしたはれの日に、しぜんを見にいったの。ベンチにすわって小鳥の声をきいてひとねむり。
（公園　　）にて

しぜんをいつもみていたら、しぜんがすきになったんだ。だからいつもここへきているよ。
（たきのながれる山）にて

実施報告
しーがｅる た アート スクール
-第２回鑑賞シート活用授業研究会-

実施日　平成 19 年 12 月　7 日　時間（　３．４　校 時　　）
学校名　川内南小学校
学年　３年　人数　３２人
指導者　川田　真紀

1.児童の活動	2.実際の様子
1　シーがる・たの説明を聞き、表紙の作品を見て、感想を話し合う。	1　最初、興味津々で次のページを見る子もいるが、表紙の説明を聞き、作品について見た感想を一生懸命に話す。 （中には、初めて出会う具象像の女性性に、照れた感想を述べていた児童もいた。）
2　ページをめくり、一番左端の読み札を使って、全員でシーがる・た遊びを理解する。 （何故その写真を選んだか、理由がポイント）	2　全員、真剣に写真を見て考える。②は女性が寝ていて時計があるし、⑦は時計がクローズアップされているので意見が多かった。後に、③を選んだ児童の「目がうつっていて、口を閉じている」という発言で時計ばかりで選ばない発想に周りの児童は感心する。（自分の思いと違う意見を聞き、視野が広がるおもしろさを体感する。）
3　一人で残り６枚の読み札の写真を探してから、班でかるた遊びをする。	3　自分の思いと同じだったり、違ったりしてどの子も意気揚々として取り組む。
4　絵札を選んで自分の読み札を作る。	4　３の活動が生きているので、自分なりに考えて読み札を書く。
1　シーがる・日記を書く。	1　最初は自分が作品の女の人に名前を付けることにとまどいやどうしてよいのか分からなかったが、時間と共にどんどん書き出す。
2　１ページ目に、背景を描く。	2　日記の内容と違う背景になる子どももいた。
3　全員で最後のページを見て、作者や作品の作り方の説明を聞く。	3　作品の作られ方を聞き、驚き興味を持つ。
4　作品の女性かシーガル宛の簡単な手紙を書く。	4　作品の女性は自分が名付け親という思いで書いたり、シーガルは何故こんな作品を作ったのか興味があったりして、どちらにも手紙を書いていた。（シーガル宛 18 名、女性宛 13 名、両方１名）

3.「シーがる・た」の鑑賞遊びを取り入れてみて（感想・要望）

★ 感想

1　美術館に行った経験者は少なかったがよく見た。

ほとんどの児童が初めて出会う本格的な立体作品だが、最初の表紙をよく見、見ただけでも深い言葉が出る児童もいた。

2　かるた遊びは楽しく鑑賞し学べる。

表紙の１ページだけでもよく見るが、２ページの読み札を読んで写真を探すという行為は、丁寧に作品を見るという行為に繋がった。また、同じ読み札でも見る人によって感じ方が違うということがはっきり分かり、驚きでもあり楽しみでもあるようだった。

どの児童もかるた遊び（自分の読み札を使った場合も含む）が飽きることなく続けられ、２時間目の作品の女性の日記や背景を描く時間がなかった班もあった。

人の鑑賞の意見をじっくりと聞き合う時間は、十分確保したい。

3　子どもは作品もだが作者にも大変興味を持っている。

いろいろな作品を他にも見たいという思いなのではないだろうか。（手紙が半数以上シーガル宛）

その日の日記に、シーガルさんみたいになりたいと書いていた児童もいた。

4　かるたの読み札は普通に書いているが、つぶやきにすごいことを言う児童もいる。

鑑賞力と文章力のギャップがある子どもを丁寧に見取る力が指導者には必要である。

★ 要望

1　作品の大きな写真と後ろから撮った写真があれば、より立体の鑑賞ができるのではないだろうか。

実践報告
しーがｅる　た　アート　スクール
－第２回鑑賞シート活用授業研究会－

実施日　平成１９年１０月１８日　２・３校時
学校名　加茂名南小学校
学年　５年　　人数　３１名
指導者　山中　真紀

１　授業の流れ　　**２　実際の様子**

１「しーがる・た」から連想することを発表することによって活動への関心を高める。	・教科書に載っている作品や友達の作品の鑑賞ではない事や聞いたことのないタイトルであることに興味を示した。
２　１ページの写真を見て，感じたことを発表する。	・材質や表情などに関する意見が多数出た。
３　２ページに載っている読み札がどれにあてはまるか絵札（写真）を当て合う。	・なぜそう考えたのかという理由を付けて発表する中で，同じ絵札を選んでいても理由がそれぞれちがうことに話題が集中した。
４　読み札を作り，グループで当て合う。	・かなり盛り上がり，次々と読み札を作った児童も多かった。 ・なかなか作れない児童にはグループの子の読み札と絵札を当て合う中で自分の感性と似ていたものを選ばせた。
５　グループの中の一押し読み札を使ってみんなでかるたをする。	・予想外の視点から見て作っていた読み札がおもしろかったという感想が多かった。 ・一枚の読み札から１１枚の写真をつなげてお話づくりをしていた児童もいた。
６　鑑賞シート４ページのシーガルさん自身や作品について書かれている部分を読み，作者や作品に対する関心を深める。	・「自分の型をとってみたい。」「本物を見てみたい。」といった意見が出た。

３「シーがる・た」の鑑賞遊びを取り入れてみて

授業後の感想では「同じ作品を違った角度から写真にとっても，一枚の写真を違う角度から見てもいろいろな表情に見えて楽しかった。」「モデルの人は実際はどこを見ていたんだろう。何を考えていたんだろう。」といったものがあった。鑑賞＝絵画という概念があった児童も多く，新鮮だったようである。２時間では足りないほど次から次へと読み札や感想が出て，かなり盛り上がった。中には違う作品の写真をとってみたいという児童もいた。このような鑑賞の方法を児童の立体作品などで応用してみたい。

2007.12.26

鑑賞シート「シーがる・た　にチャレンジ！」を実践して

徳島市大松小学校　　教諭　　鶴田　愛子

私は，美術作品を鑑賞するのが大好きである。また，小学校の教員という仕事から，子どもに美術作品をその子なりに楽しんで味わってほしいという思いもある。

３年前には大学院に通いデザインの勉強をするとともに，子どもにいかにして美術作品を鑑賞させるかというプロジェクトにも参加した。それは，Ｎ＊ＣＡＰといって，大塚国際美術館と鳴門市と鳴門教育大学との三者が協力して，子どもに楽しい鑑賞の機会を提供する新しい取り組みであった。例えば，簡単な劇をするという活動の中で鑑賞したり，絵から聞き取れる音に注目して音で表すことによって鑑賞したり，何かをテーマにしてテーマに関係のある絵を美術館の中から見つける中で鑑賞したりするものであった。

前置きが長くなったが，そういった活動の中でいつも基本となっていることは，自分（自分たち）の好きな気に入った作品を頭に置いて企画しているということ，また，その作品をどう味わってもらおうかと試行錯誤していることである。言い替えれば，自分（自分たち）の作品の好みが優先し，それを様々な手法でアプローチしていたのである。そこには，自分が好きでないものを子どもに生き生きと伝えることはできないだろうという考えがあった。

今回，この研修に参加させていただいて，この鑑賞シートを受け取り実践することになった。しかし，残念ながら，私にとってこの作品は少し苦手な作品であり，勢い込んで実践しようという気になれなくて，ついつい後回しにしてしまった。私が担任する元気いっぱいの５年生の子どもたちは，この物静かな動きのない冷たい作品をどう受け止めるであろうかと，心配が先に立った。

冬休み前，やっと重い腰を上げて授業をした。ストーブを囲んでコの字型に机を並べ，自由に話せる雰囲気をつくった。授業の展開も特に考えず，とにかくシートの順に進めた。

まずは，読み札から絵札を選ぶ中での鑑賞。意外に子どもたちは食いついてきた。「ぼくは，この写真だと思う。」「私は，この写真の方がぴったりだと思う。」

次に，絵札を選んで読み札をつくる作業。「待っている　いつまでも　バックと私」「大事なうで時計　これは　宝物」「聞こえる聞こえる　心の声」「まだかな　まだかな　はやく」など，例を参考にしてどんどんシートが埋まっていく。

最後に，シーがる・日記にもチャレンジ！。「今日は星がきれい。だからベランダで星を見てるの。あっ，流れ星。何かいいことありますように。」いつの間にか，このシートの背景は夜空となっていたり，「あといっしゅうかんすると，にゅうがくしき。つうがくろをとおってみたら，かなりとおいの。でも，ともだちひゃくにんめざして，がんばるよ。」と，今２年生の妹が入学式を迎える頃のことを思い起こしていたり，私にはとうてい考えも及ばない世界に子どもたちを誘っていた。

この物静かな作品は，子どもたちの心を静かに揺すぶり，何かを語りかけていた。何かを引き出した。この作品は，私の想像以上のものを秘めていたに違いない。

ここで一つ学んだことがある。子どもと作品を出会わせるとき，教師の意図はもちろん必要であるが，難しく考えすぎないことが大事であると。実践する中で子どもたちの反応を見ながら，自由に軌道修正しながら無理なく鑑賞することも大切なんだと。

今になってこの物静かなシーガルの作品は，最初に持った印象とはまったく違った表情を私に見せてくれる。私自身の鑑賞の幅も少し広がったような気がしている。

２００７．１２．２１

シーがる・た　にチャレンジ！

１　絵札を選んで　読み札をつくってみよう

○　２　ベンチでかれを待っている
○　４　友だちを　まだかまだかと待っている
○　４　待っている　いつまでも　バックと私
○　　ベンチにすわって考え事
○　７　手の中に必ずあるよ　宝物
○　９　かちかちになって空を見る
○　４　ずうーとずうーと待っている　あの人が帰ってくるまで
○　５　お気に入りのサンダルはいて　待ち合わせ
○　７　大切なうで時計　これはたからもの
○　１　きれいなサンダル　私のお気に入り
○　８　聞こえる聞こえる　心の声
○　11　自然の中　ベンチにすわってだれかを待っている
○　６　私のたからもの　サングラス
○　７　時計を見て　まだかまだかと待っている
○　９　思い出す　あなたの笑顔　うれしそう
○　11　笑顔で待ってる　あの人を
○　　サングラス　頭にのせてにっこり顔
○　４　友だちを　ベンチにすわって待っている
○　11　まだかなまだかな　はやく
○　９　青い空　みんなは何をしてるかな
○　　サンダルがもうはけないな　くやしいなぁ
○　11　ベンチにすわって　だれかを待っている
○　９　空を見たら　いやなことをわすれれる
○　９　待っているよ　早く来ないかお友達

２　シーがる・日記にもチャレンジ！

○　アリア（２３歳）７月７日（晴れ）
今日は星がきれい。だからベランダで星を見てるの。あっ，流れ星。何かいいことありますように。（自分の家のベランダにて）

○　ブーリ（２１歳）１１月２３日（晴れ）
彼氏にきらわれた。（ベンチにて）

○　サリー（２１歳）９月１０日（晴れ）
今日は一人で外出しました。それは，夕方になると，夕日がしずむのが見たいから。（公園にて）

○　エリザベス・スワン（２０歳）８月２０日（雨）
今日は，パイレーツのさつえいに行きました。スパロウの方がウィルよりタイプです。みんな楽しそう。つぎ，ジャックとデートなの。ウィルともデートなの。楽しみ。（船の上にて）

○　ディラン（２０歳）１２月２１日（晴れ）
　近所の公園に来て，ハトにえさをやって考え事 。（公園にて）

○　マルーン（３２歳）１月１日（晴れ）
　雲ひとつない日，いい天気。一人でベンチにすわっている。はぁー，だれか来ないかな。（なぞの公園にて）

○　ヘレン（４２歳）４月４日（晴れ）
　外に出た。木かげでねた。家に帰って本を読んだ。（ニュージーランドにて）

○　かちんこちんさん（１００歳）１２月８日（晴れ）
　ベンチでこしをかけて，ちょっと寒いけどながめがきれい。（公園にて）

○　パーシー（２０歳）１月２日（晴れ）
　今日友だちといっしょに，映画を見に行った。すごく楽しくておもしろかった。

○　デイジー（３２歳）８月３１日（晴れ）
　夏休み最後の日に，友だちと遊ぶ予定で，何をして遊ぼうと考えながら，公園のベンチで待っている。（公園のベンチにて）

○　マリー（２５歳）３月４日（晴れ）
　今日は友だちといっしょに公園に行く約束をして，待ち合わせ場所のベンチに来たんだけど，友だちがなかなか来なかったの。３０分も待たされちゃった。でも，案外楽しかったからべつにいいの。（待ち合わせ場所のベンチにて）

○　ピンキー（２１歳）１０月１０日（晴れ）
　わたしは近所の公園に行きました。わたしは頭にサングラスをのっけて，かかとをあげ，すまし顔で待っていました。待っているうちに夕方になりました。（近所の公園にて）

○　なでしこ（２５歳）８月２６日（晴れ）
　今日は友だちとデパートにお出かけ。だからおしゃれをして公園のベンチで待っている。（公園にて）

○　リナ（１７歳）８月１７日（晴れ）
　今日は私のたんじょうび。みんながいわってくれると言ったから，公園に行ってみたけど待っても待っても来なかった・・・ちょっとさみしい。（公園にて）

○　ラリー（１３歳）１０月２８日（晴れ）
　今日は晴れだったので，一人で散歩した後にひと休み。ベンチにすわってだれかを待っているつもり。（公園にて）

○　マリー（１８歳）１１月１０日（晴れ）
　今日は友だちとお出かけなの。買い物をして楽しかったわ。公園に行ってベンチが冷たかったの。（公園にて）

○　マーガレット（１４歳）８月１７日（晴れ）
今日は私のたんじょうび。だから友達とたんじょうびパーティーをしました。とても楽しかった。（自分の家にて）

○　キャサリン（２０歳）８月２１日（晴れ）
今日公園で空をながめていた。すると，羊の形をした雲を見つけたの。とても，楽しそうに遊んでいるみたいだった！！すごく楽しそうに！！（公園にて）

○　キャリー（２８歳）１２月２５日（晴れ）
今日，子どもたちがクリスマスプレゼントで遊んでいた。みんな楽しそうだった。私も子どものころにもどってみたいなー。（公園にて）

○　キャサリン（２０歳）１２月２１日（晴れ）
今日，公園のベンチで，かれしのディランがこなくて，ディランの家に電話して「りこんよ」といってすっきりした。（公園のベンチにて）

○　クララ（１４歳）１２月２４日（晴れ）
今日はクリスマスイブ。私は一番のお友達とお気に入りの公園で待ち合わせをしていた。「まだ，こないかな・・・」（公園にて）

○　マリー（２２歳）１２月２０日（晴れ）
今日は庭で散歩をしていた。きれいな花が咲いていたのでとって，家に入って花びんに入れた。とっても美しかった。（庭にて）

○　キャサリン　７月１日（晴れ）
今日はさんぽをしました。私は新しいサンダルだったから，すごーくうれしい気分だった。（さんぽ中）

○　エリー（１１歳）６月１７日（くもり）
きのうは雨，今日はくもり，明日は晴れだろうか。雨が続くつゆどき，いつ私の心が晴れるんだろう。（公園にて）

○　ひな（５歳）３月３１日（晴れ）
あと一週間すると，入学式。通学路を通ってみたら，かなり遠いの。でも，友だち百人めざしてがんばるよ。（もう少ししたら通る通学路にて）

○　ミス・ジュリエット（４９歳）×月〇日（くもり）
今日はさいあくだった。ベンチでかれしを待っていたのに，いつまでたっても来ない。ふられた。（公園にて）

○　マリー（２１歳）１２月２５日（くもり）
クリスマスに公園で友だちと遊ぶ約束をした。けれど，急用で友だちはこれなくて，ひとりとぼとぼ帰っていった。（公園にて）

実 践 報 告
しーがeる　た　アート　スクール
ー第２回鑑賞シート活用授業研究会

実施日	平成 19 年 10 月 23 日（火）～ 10 月 25 日（木） 朝の活動　スキルタイム（８：１５～８：３０）
学校名	徳島市北井上小学校
学年	６年　　人数　２５人
指導者	太田　裕子

	１．授業の流れ	２．実際の様子・児童の反応など
Ⅰ	①「ベンチに座るサングラスの女」と出会う ○掲示物（Ａ３白黒コピー）で見る 「先生の新しい友達を紹介します」 ○ワークシートの表紙で見る 「どんな人だと思う？」 ②読み札づくり ○「ベンチにすわって・・・」 ○もっと作ってみよう ・例にある読み札と絵札を合わせてみる ・絵札をよく見て ・例を参考に ・友達の読み札を参考に （できた人から発表する）	① ・先生の友達って男? ボーイフレンド? 彼氏? ・筋肉もりもりのマッチョマン！ ・えー！！女の人！？ 白い・スタイルがいい・背筋が伸びている・礼儀正しい・静か・やさしそう・かしこそう・おしゃれ・女性（２０歳前～３０歳） ② 彼氏を待つ・友達待とう・のんびりと・うとうとと（寝ています）・ひと休み ・それぞれの読み札と絵札のペアを考え，なぜそう思うのか自由に感想を言い合う。 ・どの絵にするか，絵に合う言葉は何かを悩みながら作る。（10/25 人は苦労する） ・読み札作りの難しい子は例の真似をしたり友達の読み札を参考にしたりして作る。
Ⅱ	③作った読み札でかるた遊びをしよう ・全体で ・班で ・よいと思う読み札を紹介しよう ④シーがる日記にチャレンジしよう ・名前と年齢，場所を設定して ・「ベンチに座るサングラスの女」になりきって ・どうしてここにいたのかを考えて	③・自分達が作ったかるたであり，正解も分かるため盛り上がる。 ・発言しやすくなり，班の仲間で楽しむ ・なるほど！・正解ってこれなん？友達同士の交流が広がる ④・想像力をいっぱいに働かせて日記を綴る。 ・静かな中，自分の日記に満足したり小さく笑ったり，隣の子に見せたり，「先生○○さんのおもしろいよ。みんなに紹介してぇ」という児童も。日記作りも楽しんだ。
Ⅲ	⑤日記の紹介 ⑥作者ってどんな人？ 「こんど街で会ったなら。」を読む。 ⑦今までの活動を振り返る	⑤・自分で書いた日記を発表する。子ども同士いいところを言い合いながら楽しむ。 ⑥・他の作品（写真）を見て／本物みたい・会ったら怖い・壁も作品！？と驚く ・製作方法を知ってさらに驚く ・シーガルの作品（人物像）に会ってみたい。 ・シーガルさんのこともっと知りたい。 ⑦ ・楽しかった・もっとしたい・他の作品でもやってみよう・ぼくらの日記，近美のブログに送ってね！

＜発展＞　子ども達の「もっとやりたい」「他の作品でもやってみたい」の願いを受けて，もう一つ人物像（上月佳代作「far　away」）の作品を鑑賞しました。シーガルの「ベンチに座るサングラスの女」と比較して共通点や相違点を見付けるところから出発し，作品の特徴やよさを見付けたり人物像の気持ちやセリフを考えたりして鑑賞を楽しんだ後，作者のインタビュー記事や審査員のコメントを読みました。子ども達は作者の意図や思いを知った後，かるたや日記づくりを楽しんだり，審査員になりきっての記事づくりに挑戦したりしました。「シーがるた」での活動が生き，子ども達の作品の見方や感じ方に広がりが見られましたし，表現の仕方もさらに深まりを増し，鑑賞を楽しむことができました。

３．「シーがる・た」の鑑賞遊びを取り入れてみて

・子ども達は鑑賞の新たな楽しみ方を知り，次の鑑賞への意欲付けとなった。
・初めは戸惑っていた子ども達も，感じたことを言葉に表す心地よさを知り，進んで言葉にしたり，友達同士感じたことを交流したりすることを楽しんでいた。（だんだんと活動が活発になっていった）＊かるた遊びは友達同士の意見交流の場としてとてもいい。
・ワークシートの写真がきれいで伝わりやすく，部分的な写真が大変効果的で，いろいろな読み札づくりを可能にしている。（発展の活動をして実感しました。）
・たくさんの例があるので，言葉にすることが苦手な子どもにとってはとても良かった。途中まで真似したりして作っていた。
・裏表紙の読み物もいい。高学年になると作者のことや製作方法についても知りたがるので，大変ありがたかったし，何より文章がいい。
・教師自身もその後の鑑賞活動の指導に大変参考になった。子ども理解にもつながった。

４．児童の作品

〈かるた〉
・デートの日　胸がどきどき鳴っている
・考えても考えても　分からない
・青いお空を見ていたら　なんだかねむたくなってきた
・散歩道　ちょっと疲れて　ひと休み
・この時計　今のわたしの　お気に入り
・さみしいな　時計と私と　二人だけ
・遠くの空を　ずっとずっと　見つめてる

〈日記〉

８月８日（晴）
今日もいつものベンチで友達と待ち合わせをしたよ。でも待ちきれなくて３０分も早く来すぎちゃった。だから、ベンチに座って今日することをたくさん考えたよ。
公園にて　コリー（２１歳）

８月２７日（晴）
考え事が多いので外に出てベンチにて気分転換。それより早くこないのかなぁ。私の自由。　アメリカイリノイ州の公園にて　メアリ（２０歳）

７月２５日（晴）
今日は友達とショッピングの日だから朝からばっちりオシャレにきめていたのに友達はちこくしたの。　公園にて　セラン（２６歳）

１０月３０日（晴）
やっぱり私は来るのが早すぎた。１時間も待たなければならない。だからちょっとたいくつ。気がつくと私は夢の中。不思議な世界の中だ。あっという間に１時間。彼氏が来た。　植物花園にて　キャサリン・マーク（２９歳）

９月２３日（晴）
私は、いつもこの場所で休んでいる。なぜだか分からないけどこの場所が一番のお気に入り。景色もよく見えるし絶好調。この場所だとなんだか落ち着く。明日もあさっても私はこの場所で休んでいると思います。　公園にて　エミリー（２７歳）

実践報告 しーがｅる た アートスクール －第２回鑑賞シート活用授業研究会－	実施日　平成 19 年 12 月 20,21 日　3 時間 学校名　吉野川市川島小学校 学年　6 学年　人数　31 名 指導者　脇本　正久

『シーがる・た にチャレンジ！』の授業実践

１．授業の流れ　（３時間＋発展）	２．実際の様子
1　ジョージ・シーガルについて知ろう。 （鑑賞シート p4）	○　教師の話を聞く。 シーガルのプロフィールや作品を写真等で説明する。
2　『ベンチに座るサングラスの女』をみて感じたことを，話し合おう。 （鑑賞シート p1）	○　「ベンチに　すわって　・・・・・・」の読み札の続きを考え，発表する。 ・ みんなを見てる ・ 待ち合わせ ・ ひと休み ・ すましてる　・・・等
3　読み札から絵札を考えてみよう。 「考えて 考えて 石になったんだ」 「かかと うかせて すまし顔」 「サングラス 頭にのせて 待っている」 「笑顔が こぼれる 手の中の 大切なもの」 「てん てんてん まる まる ○○ コピーしたの」 「かちかちに なっちゃった だから涙も もう でない」 「ねむって いるよ 時計と私」 （鑑賞シート p2,3） 1 時間	○　「考えて考えて石になったんだ」の読み札について絵札を考え，理由を発表する。 絵札②手を添えうつむいてるから 首をかしげているから 絵札③真剣なまなざしだから 絵札④真剣そうだから 時間がたっているような感じだから 遠くを見つめ，考えているような感じだから 絵札⑨ぼーっと考えているようだから うつむいているから 絵札⑩首をかしげているから考えているよう ○　ほかの読み札についても，どの絵札かを考え，グループで話し合う。

4　絵札を選んで読み札をつくってみよう。 （鑑賞シート p2,3） 2時間	○　絵札を選び，読み札シート*1に，自分の考えた読み札を記入する。 *1　鑑賞シート p3 の読み札を参考に作ったもの （できれば，絵札①～⑪のすべて作ってみる。） ○　読み札シートを切り抜き，絵札のところに貼る。
5　私たちのクラスの読み札を決定しよう。	○　みんなが考えた読み札を読み，よいと思うものに投票する。 ○　投票数の多かった読み札を考えた子は，読み札を考えた理由を発表する。 ※　読み札や，投票結果については資料参照
6　女の人のある日を日記に書いてみよう。 （鑑賞シート p3） 3時間	○　これまでの学習をもとに，女の人の気持ちになって，日記を考える。 ※　日記の内容については資料参照

7	今後予想される子どもたちの活動
背景をかいてみよう。 （鑑賞シート p1）	・色鉛筆などを使って背景をかいてみる。
シーガル・ブログに投稿しよう。 （鑑賞シート p4）	・希望者は投稿する。
実際に美術館に行ってみよう。	・家族で行ってみる。
シーガルについて調べよう。	・インターネット等を活用し，調べる。
自分たちの作った読み札で，カルタ遊びをしよう。 発展	・休み時間や特別活動等で行う。

３「シーがる・た」の鑑賞遊びを取り入れてみて

- 子どもたちの感想からも，大変興味を持って取り組むことができた児童が多かった。
- 彫刻の鑑賞がはじめてだったので心配していたが，鑑賞シートの内容が充実していて，子どもたちが飽きることなく授業を行うことができた。
- クラスの中で鑑賞が苦手な子は，国語の作文も苦手であるという傾向がみられるが，かるたの読み札をつくるという活動は，そんな子どもたちにとっても取り組みやすかったと思う
- 授業を行うにあたり，板書（掲示）用の写真が必要だった。鑑賞シートの写真をコピーし利用したが，印刷物であるため拡大するとドットが目立ってしまった。（遠くから見るにはあまり目立たない）　もし可能であれば，ホームページ上から鑑賞シートの写真をダウンロードできるようになればいいと思う。
- シートに直接書き込みができるので，大変便利である。今回の授業では，子どもたち一人一人に読み札が最低でも１１枚必要だったので，鑑賞シートをコピーした。読み札も，ダウンロードできるといいと思う。
- 実際に作品を見たいという意見があるのだが，地理的な問題から，美術館まで足を運ぶという活動が難しい。現状では，遠足しか機会がないのが残念である。
- シーガルの作品やその作り方に興味を持ち，進んで調べようとする子がでてきた。
- 「同じポーズなのに，写真によっていろんな表情に見えたのが不思議でした。」という感想があった。その感想をもとに，作品を見る位置や視野，角度，背景などの違いによって，同じ作品でも感じ方が違うということを子どもたちに話すことができた。

授業後の子どもたちの感想

- 思い通りに読み札ができてうれしかった。
- 読み札を全部書くのにすごく時間がかかったけど，楽しくできた。
- 作品を見て，いろんな思いやイメージがどんどんわいてきました。
- 読み札を考えるのが難しかった。
- 書くことがなかなか思いつかなかった。
- 実際に近くで見てみたい。
- 写真より実物を見たらどんな感じがするか気になる。
- シーガルさんのほかの作品を見てみたい。
- 女の人の日記を考えて書くのが，とても楽しかった。
- 同じポーズで変わっていないはずなのに，表情や気持ちの表現がかわっていてびっくりしました。
- みんなで作ったカードでカルタをしてみたい。

子どもたちの作った読み札

①	◎ サンダルが 夏のおとづれ 告げている ・ 足の先 ほら今にも 動き出す ・ てんてんてん 涙のような つぶがある ・ 私は 夏も 冬も ずっとサンダル	⑦	◎ この時計 とまって しまったのは いつの日か ・ 左手に とけいをもって 時間見る ・ 手の中の 大切なもの なんだろう？
②	◎ みんなは歩く それでも私は 歩かない 歩けない・・・ ・ だれを見る みんなをみつめて だれさがす ・ 下をむき じっと見ている うで時計	⑧	◎ 胸の中 どんな思いが あるのだろうか ・ 胸の中 どんな想いがつまっているの ・ ドキン！今 心臓のこどうが 聞こえたよ
③	◎ かなしいよ 誰か助けて 歩かせて ・ かなしそう 涙ながすか ながさない ・ 悲しくても あなたのように 泣けない ・ 私は いつ自由に なれる？	⑨	◎ まっすぐに 空を見つめ どこを見る ・ とおくを見て 何を考えて いるのだろうか ・ ときが過ぎ いつかはｺﾞﾐに なるのだろうか
④	◎ いつも 同じ景色で つまらない ・ ぼんやりと あなたはなにを みつめてる ・ かなしそう 遠くを見つめ 何を見る	⑩	◎ みんな どうして 行っちゃうの ・ サングラス 光あたっても 反射せず ・ 神様 私のわがまま 一度だけ 聞いてください
⑤	◎ もしも 願いがかなうなら あなたのように 動きたい ・ もう一度 あなたのように 動きたい ・ かかとあげ つかれをなおす リラックス	⑪	◎ 上を見て だれをまつのか その顔は ・ いつまでも まっていられる人がいる ・ ずっと 座っていても 心の痛みは なおらない
⑥	◎ 固まっても にっこりほほえみ ひと休み ・ 笑顔で 待ちます いつまでも ・ えがおだよ でもなんだか かなしそう	◎ 決定したクラスの読み札 ・ その他，得票数の多かったもの ※ 表記は子どもたちの書いた読み札 の通りにしています。	

子どもたちの書いた「女の人のある日の日記」

名前　ナタリー　25 歳の日記
7 月 14 日　天気 晴れ
今日は公園で友達と待ち合わせ。せっかちなので，少し早く公園についた。ベンチにすわりしばらく待っていると，だれか公園に入ってきた。
・・・しかし，その人は友達ではなかった。それっきり人も現れず待つこと 2 時間。やっと友達が現れた。わたしが，少しおこって時計を見ると
・・・時計が止まっていたことに気がついた。2 時間も早く公園に公園に着いてしまったらしい。
場所　公園のベンチにて

名前 ラジェール 28 歳の日記
8 月 8 日　天気 晴れ
わたしは何のためにここに来たのだろう。来たら，時間も時計も止まったみたい。自分の体が重く感じる。どうしてだろう。それにしても今日はいい天気！わたしは何を考えてここに来たのだろう。世の中は，ふしぎなこともあるものね。
場所　公園にて

名前　伊沢美雪 25 歳の日記
4 月 1 日　天気 晴れ
私は，毎日ベンチにすわってあの人をまっている。だが，あの人はなかなか来てはくれない。五日，六日とたつが，あの人は来てはくれない。あきらめかけていたとき，あの人は来てくれ，私は満開な笑顔をあの人へ見せた。
場所　桜の満開な公園にて

番外編「シーがる・た」

富田小　濱口由美

ここでは、「シーがる・た遊び」のちょっとおもしろくておすすめの活用例として、子どもたちの作品で行った「シーがる･た遊び」を報告させて頂きます。子どもたちはもちろんのこと、保護者とも一緒に楽しい鑑賞活動が生まれる番外編「シーがる・た遊び」です。

1．お話の絵で　シーがる・た！

子どもたちがお気に入り（？）の本を選んで「お話の絵」を描きました。

一人一人の思い描いた世界に寄り添いながら、互いの作品を見ていくいい方法がないかなあ・・・と考えていたらなんと「灯台下暗し」でした。ぴったりの鑑賞遊びがあるじゃないですか。

さっそく、子どもたちのお話の絵で「シーがる・た遊び」に取り組むことにしました。まずは、完成した自分の作品と改めて向き合います。そして、「自分の作品から発見したことや感じたことをどんどん読み札として書いていこう。」と声をかけ、できあがった読み札の中からお気に入りの一枚を選んで自分の作品読み札としました。

さて、みんなの読み札が揃ったら、「お話の絵で、シーがる・た大会」の始まりです。誰が書いたか分からないようにしながら、１枚１枚読みあげていきました。

「ようかいたちが、きれいな木にのぼったよ。」

「あ、あれだ。まちがいないよ。」

みんなが、一斉に同じ絵を指します。自分の分身でもある作品が、友達からスポットライトのようなまぶしい視線をあびる瞬間です。すると、その読み札を書いた子どもから、思わず笑顔がこぼれます。

特別な賞賛があるわけでもありません。しかし、みんなの共感的な思い（君の絵のことは、よ～く分かっているって）が、自分の作品に向けられていることぐらい、子どもでも十分感じることができます。また、絵札を探し出す子らも、友達の世界を理解できたことが誇らしいのでしょう。言い当てる度に、「よっしゃあ～」と大きな声が飛び交いました。

短時間でこんな素敵な空気を感じた相互鑑賞は初めてです。だって、どの子もがあっという間に主役になれるのですから。

2．お家の人と　シーがる・た！

個人懇談の一番の喜びは、子どもたちの成長を共に伝え合い、それを一緒に感じられることにあります。しかし、短い時間の中で、日々の学びの姿を言葉だけで伝えることは難しいです。そこで、ここでもまた、お話の絵で「シーがる・た遊び」を活用することにしました。

子どもの絵には、その子の思いや願いはもちろんのこと、頑張った勲章や苦労の足跡もいっぱい残されています。それを「シーがる・た遊び」を通して保護者の方にも気付いてもらうことができればいいなあと考えたのです。

それで、「帰られる前に、かるたをやっていただきたいのですが、よろしいですか？今から、お子様のお話の絵の読み札を読みます。後ろの作品の中から、どれがお子様の作品か、当ててくださいね。」と「シーがる・た遊び」のお誘いをしました。

ちょっとびっくりされている方もいましたが、どの方も快く（？）耳を傾けてくださいました。

「秋の朝、もみじといちょうのはっぱで森のベットができました。」

すると、ほとんどの保護者の方が、読み札を復唱しながら懸命に探して下さいました。そして、うまく見つけた後も、読み札を繰り返しながら、なるほどと納得しながら見つづけたり、「あっそうか、ここがベットなんだ」と私も気がつかなかった子どもの足跡を告げてくれたりすることもありました。きっと、保護者の方にとっても、子どもに素直に寄り添うことのできる穏やかな時間となったことでしょう。

「鑑賞遊びは、人権学習やなあ」そう、言ってくださったのは、美術館での「シーがる・た遊び」を子どもらと一緒に活動してくださったＴ教頭先生です。一人一人が輝く活動の場を生み出してくれる「シーがる・た」。今度は、子どもたちの中からも、いろんな番外編「シーがる・た」が生まれてくることを楽しみにしています。

お話の絵で「シーがる・た」

ゾロゾロリ
うおぉ～

秋の朝、もみじと
いちょうがさなりあって
森のベッドができました。
読んだ本の名前
感想と
読み取りの作者

よ
うかいたちが
きれいな木に
のぼったよ
読んだ本の名前
感想と
読み取りの作者

各年齢層に「シーがる・た」を実践してみて

子どもたちと鑑賞遊びに取り組んでいると、人が絵を見る働きについて多くのことを気づかされます。様々な年齢層に実践してみて考えたことを、ここでは述べたいと思います。大人である私たちの姿勢をみつめ直したいと思うからです。

ところで、大人あるいは高学年の子らと活動する場面で、恥ずかしがらずに表現したり交流したりすることを難しく感じる様子に数多く出会いました。学年・校種を越えて「鑑賞遊び」を広めようとする際にはこれも無視できない問題ですが、主に授業テクニックの要素も大きいと思うので、ここでは触れません。別の機会にまとめたいと思います。

●「シーがる・た」のルールの特長

「シーがる・た」の鑑賞遊びは、言葉で表現することを核にしています。表現し伝え合う活動を通して、作品と関わる体験が確かなものとなり、その方法が自然に身に付いていきます。

言葉を介して絵を味わったりそれを交流したりすること自体は、何も特別なことではありません。「シーがる・た」の特長は、自分にどう見えたのかを大切にすることがルール化されている点にあります。自分で絵を選び、下調べや解説なしで、短時間で、短文として表現します。そしてお互いのカルタを当て合います。この簡潔なルールが求めているのは、視覚イメージのコミュニケーションに徹することです。言葉の表現を活用しながらも、ジェスチャーゲームや絵のしりとりにも似た、視覚重視の活動でなければなりません。このことは、実は美術鑑賞の学習の要と言えるほど大切なことであり、私たちが支援の立場で関わる際には少し注意が必要です。

これまで小学校低学年や幼児から、中・高校生、大学生、教員、保護者など様々な年齢の人たちとこのプログラムを実践してみて、気づいたことがあります。あくまで経験則ですが、一般的に大人になるほど、視覚イメージのコミュニケーションに徹するのが難しいということです。つまり、簡単に言えば「カッコいい俳句」を書いてしまうということです。理由を説明する前に結論を言っておくと、教師側のNGとは次の点です。

・絵を深く読み込んだカルタばかりほめる。

・絵から離れて、作文としての良さばかりほめる。

これは分かれば難しくもないことですが、実感するまで少し理解しづらい面もあります。一言で言えば、私たち大人が、見ることよりも解釈や意味づけを急いでしまいがちだからです。以下少し長くなりますが説明しておきます。

●子どもの絵の見方と「シーがる・た」

絵描きや美術部の生徒と話していると、「悲しい空を描いたつもりが、むしろ恐い空になっちゃった」といった裏話を聞くことがあります。絵が思い通りにならない経験は誰にでもあることですが、もう少し描き方を制御できる人の話として聞いて下さい。

そこでは、絵の中の一つ一つの要素が見る人へ本当によく伝わっていそうかどうかが検討されています。それを見て取る力があるから、描き出すこともできるわけで、そういう人たち同士で行われる「絵との対話」です。では、描ける人しか見て取ることはできないのかといえば、そうではありません。ただしそれができるためには、まず絵の描かれ方、表され方自体をよく見る必要があります。

断っておきますが、絵描きの意図や動機を理解せよという話ではありません。むしろそのような解釈や憶測に進むより前に、自分の目にどのように映るのか、その実感を大切にしたいという話です。視覚イメージとして表現された絵を、見る側がどのように受け取ったか、それを言葉にするのは必ずしも単純なことではありません。見ることが難しいと言うよりも、人によって受け取り方に幅のあることが問題です。それが美術鑑賞の面白さであるとも言えるのですが、誤解してはいけないのは、受け取り方の幅と、勝手解釈は違うということです。様々な解釈を生むにせよ、目の前の表され方にまずは実直であることが美術鑑賞の基本です。そしてそこに幅があるのだと、支援する側は知っておきたい。このような鑑賞の働きを見すえることなく、自由か強制か、子どもの目線か大人の解釈か、といったことをいくら議論してもきりがありません。そのことを説明したくて、絵描きの話題を示しました。

まとめると「ただ見る」ことのすすめ、実感のすすめです。絵の意味だけを見たり、木を見ずに森だけ見たりするのではだめということです。このことを、「シーがる・た」に取り組む子どもたちは教えてくれます。

子どものカルタには、突飛に思えるもの、当てるのが難しそうなものが多くあります。それでも本気で探せば見つかるし、クラスの誰かはあっさり当てていたりします。そして理由を聞き合う交流の活動でも、様々な人生経験が一つの絵にスパークして、本当に自分の知らない価値観に出会ったなあという感慨を生みます。ところがです。大人のカルタは、本気で当たらないものが多く、また当たったところで、「へえそう」で終わってしまいがちです。なぜなら、その絵でなくても言えるような、その人の美術観や関心を一般的に語ったり、当てはめたものが非常に多いこと。そしてその原因として、絵の表され方自体から出発していなかったり、初めはそうであっても、作文行為の中で解釈や意味づけが進んで、みる影もなくなっていたりするからです。そこには、絵自体を見ることを追い越して、意味を決めたり解釈をもんだりしてしまいがちな、大人の鑑賞姿勢が露呈しています。

いわば森を見ず木を見て取るような見方を、小さな子どもたちは得意です。もちろん子どもたちは森の全体を推察したり、抜かりなく批評する必要にせまられていませんから、はしっこばかり見ています。けれども、例えとるに足らない細部を見ている時でさえ、絵の表され方自体から生まれた意見は、必ず絵の内容とつながっており、往々にして私たちに大事なことを気づかせてくれます。子どものカルタが教えてくれる「とるに足らないこと」は、その絵にとっては実はとるに足らないことなどではありません。それが些末だとか絵の主題から遠いなどと考えてしまうのは、意味や解釈を急ぐ気持ちがそうさせるのであって、絵そのものは意味や解釈の翻訳物ではないことを覚えておく必要があります。「言葉にできないものを描く」という言い方では誤解を招きそうです。言葉で説明できないのではなく、言葉に換えることはできない、そこに美術鑑賞のカギがあるのです。

「シーがる・た」の鑑賞遊びは、作文・表現・意見交流など多面的な要素を豊富に持っていますが、当の絵を見る方法の点で、極めて大切でまた教えにくい勘所を押さえています。よく見るという感性的な活動と、解釈や意味づけの活動を、切り離してはならないものとして体験させるということです。意見を書けることや交流できること以上に、自分の視覚を確かに活用したという着実な経験によって、主体者としての鑑賞姿勢が育まれてほしいと願っています。

（'07/12/19 竹内利夫　徳島県立近代美術館）

しーがeるた アートスクール
10月9日

① 授業体験の様子。鑑賞シートの基本の流れを子どもの立場になってまず体験。

② グループに分かれて、お互いの作った読み札を当てっこしました。

③ 「シーがる・た」のルールを覚えたら、次は「美術館でシーがる・た！」。展示室にならんだ様々な作品を絵札として、読み札をつくり、カルタ当てをしました。

しーがeるた アートスクール
12月22日

① 授業の様子を持ち寄って、意見交流をしました。

② シーガルの作品を囲んで。

2007/10/09

Welcome

しーがｅる　た　アート　スクール

Segaeru　ta　Art　School

時間	時間割	プログラム
１４：００	入学式	ケロリ塾長のあいさつ 在校生と新入生の対面 ケロ先生のシート秘話
１４：１５	１時間目	教室でシーがｅる・た
１４：５０	休憩・移動	
１５：００	２時間目	美術館でシーがｅる・た
１５：４０	休憩・移動	
１５：５０	期末試験	Do its best！
１６：００	井戸端ゲロゲロ会議	一日の感想（その他） ケロ先生からの宿題 次回の日程 ケロリ塾長からの通信簿！

■基本的な流れ　鑑賞シート「シーガルの人間像」

	シート	活動の流れ	ポイント、大切にしたいこと
① 「シーがる・た」遊びへ誘う 5 分		気づいたことを言ってみて この作品とシーがる・た遊びをしよう。「ベンチにすわって・・・」 この後にどんな言葉が入るかな？ 少しずつ違う読み札ができるね	「シーがる・た」遊びのルールを全員が理解できるようにします。 ・全体の印象から出発。連想や想像も大切にする。 ・どんな着眼点も読み札になる。 ・ベンチも作品であることを知らせる。 ※背景を描くのも楽しい（p.3 参照）
② 多様な見方を受け入れる 20 分		どの絵札でつくったか当ててみて 「サングラス　頭にのせて待っている」 どうしてそう思ったかな ぴったりの組み合わせをほかにも探してみて	視点によって様々な意見があることを、みんなで受け入れる場を作ります。 ・よく観察する。 ・自分なりの視点を大切にする。 ・読み手の視点に理解共感する。
③ 自分も表現する 20 分		読み札をつくってみよう グループで当てっこしよう お互いの見方を交流できるね	実際に表現してみることが、互いの見方に耳を傾ける態度にもつながります。 ・何を言語化しようとしたのかを大切にする。 ・ペアやグループの学習を取り入れることで交流を深めたい。 ※日記や、p.1 の描画にも展開できる。
④ 作家に親しむ		ほかにもこんな作品をつくっている インターネットで交流できる	作家の人柄やテーマに親しみを持つことで、自分たちの連想や解釈が、ふくらんでいきます。 ・技法やテーマを考える場でも、自分で見出した作品の価値と、つなげたい。 ・作品との「関わり方」は、これからの鑑賞経験にも活かすことができる。

なぜ、鑑賞遊びなの

濱口由美

★旅する 27 人の鑑賞者に

美術作品と夢中になっておしゃべりを始める子どもたちの視線。対話型鑑賞活動に取り組みはじめた頃、絵本の読み聞かせのときに見せてくれる眼差しと似ていることに気づきました。いたずらや失敗をとことんやってのけてくれる絵本の主人公に自分を重ね、自らを解放しているときの子どもたちの眼差しです。また、作品との出会いから生まれる対話は、造形遊びと肩を並べるほど創造的な活動であり、子どもたちの成長にとってかけがえのない自己発見の場をもたらすものと感じました。そして、それは実践を重ねるほどに確かなものとなり、この活動への思いと期待は今も膨らみ続けます。

しかし、そんなすがすがしい大海原にも、にわかに宿る曇を見つけることがあります。作品との出会いから湧き出てくるものがあるのにそれを言葉にできない子や、作品を囲んでの対話に入っていくことができず思いを断念してしまう子に気づくときです。教師と 27 人の子どもたちが一緒に活動していく対話型鑑賞活動だけでは、どうしても積極的な子どもたちの見方や感じ方に統合されやすく、個々がつくりあげていく作品世界が尊重されにくいこともあるのです。

絵本の前にすわる 27 人の学級児から注がれるまっすぐな眼差し。それは、子どもたちがそれぞれの作品世界を旅している証なのでしょう。ページをめくる度に絵と言葉で道案内されるこの世界は、誰でもがエルマーになれるのかもしれません。ちゃんと目的地に到着できるという自信が、回り道へと足を延ばしたり迷路に侵入したりしようとする冒険心も与えてくれます。

美術作品と子どもたちが出会う場所。そこも、27 の作品世界への入り口であるはずです。しかし、そこにあるのは、自らが道しるべを見つけて行かねばならない未知の世界です。その中を、自分らしく旅していくのは容易なことではないでしょう。けれども、その扉を開け、力強く自分の足で踏み出すことができたならば、かけがえのない自己実現の場を一人一人が手にすることができるはずです。では、27 人の子どもたちが、自分の足跡を確かめながら、しっかりと作品世界を歩んでいくためには、どのような支援が必要なのでしょうか。

一つは、作品とじっくり向き合うことのできる関わり方を子どもたちが手に入れることがきるようにすることだと考えました。行く先の見えない作品世界を一人で歩いていくには、不安も抱くことでしょう。せっかく扉を開けても、そこから先の一歩が踏み出せずに、困惑してしまう子どもがいても不思議ではありません。そんなとき、道しるべを探し当てることのできる関わり方を身に付けていたらどうでしょう。それが、一人一人のコンパスとなり、眼差しを注ぐ方向を示してくれることでしょう。

二つめは、一人一人の考えを伝え合うことができる小集団学習の場を大切にしていこうと考えました。小さなグループでの交流は、個々の活躍の場が必然的に保障されます。コンパスを手にした子どもたちは、きっと互いの変容を引き出すような交換・交感の場を構築していくことができるでしょう。互いの道しるべを伝え合うことで、一人では描くことのできない旅の地図を手に入れてほしいと考えたのです。

「作品世界を自分らしく旅する 27 人の鑑賞者に会いたいな」その夢を実現するために生まれた鑑賞プログラム。それが、私たちが提案する「鑑賞遊び」なのです。

★子どもたちに鑑賞パスポートを

子どもたち一人一人が自信を持って、自分や友達の鑑賞世界をたずね歩いていくことのできる学びの場を生み出すために必要なもの。コンパスとなる関わり方や地図を描く交流の場を、子どもたちの自立した社会が築かれていく伝統的な遊びの中に求めていきました。かんけりやおにごっこの伝統的な遊びの中では、口数の少ない子や幼い妹たちも、安心して遊びの輪に入り、自分らしさを発揮しながら活動することができます。それは、遊びのスタイルを容易に模倣できるシンプルさと個々の考えや創意を認める自由さを合わせ持つルールがそこにあるからだと考えます。

ならば、模倣と創造が可能なルールを鑑賞活動の場に提示すればどうでしょう。みんなが同じルールをもつことで、自分の考えをしっかりと持つことができ、互いの思いを共感的に受け止めながら、新しい意味を生成していくことのできる鑑賞の場が生まれてくるはずです。

「シーがる・た遊び」は、そんな願いのもとに考案された鑑賞遊びのルールの一つです。

「ベンチに座って$\boxed{\text{バスを待つ}}$」

「ベンチに座って$\boxed{\text{ひと休み}}$」。

最初に取り組むモデル学習で、作品から見つけたもの、感じたことを自分の読み札として言語化する関わり方を手に入れた子どもたちは、その後、一気に飛翔していきます。１枚の読み札を抱いて、作品との静かなおしゃべりの時間に集中します。編まれた読み札からは、学びひたる交流の場が生まれてきます。

「シーがる・た遊び」の読み札が、自由に行き交うことのできるパスポートとなって、互いの作品世界の探検や、美術館での一人旅を楽しむ 27 人の子どもたちの活動を応援していくのです。

★コンパスを片手に足跡を

「シーがる･た遊び」から生まれた読み札には、一見突拍子もない見方と思われたものも、実は本当によく見て作られたものであることに気づかされることが度々あります。

老人は誰かをずっと待っている

「ベンチにすわるサングラスの女」から、生まれたこの読み札も、その中の１枚でした。授業の終わりころ、「まだ、発表していない人がいたら読んでみて。」の声かけに励まされて披露してくれた小学校３年生の渾身の読み札です。ほとんどの子どもが、この彫刻作品に若い女性像というイメージを持っていたのか、読み終えると「えー」「不思議すぎー」という驚きの声が飛び交いました。しかし、正解の絵札とその理由を知ると誰しもが納得させられたのです。無造作な石膏跡から頸骨の浮き出されてくる細い首が、確かに年輪を感じさせるものであると。

この児童は、自分で見つけたものを全身の感覚で受け止めたことでしょう。作品から見つけたことを自分の一番納得できる言葉に置き換えて紡ぎだされたのがこの読み札なのです。誰かから教えられた見方でも借りてきた言葉でもありません。自分の目に映ったものを自らの言葉で伝えようとした創造的な鑑賞活動の証なのです。そしてそれは、自分の足で作品世界を歩いたものしか残すことのできない足跡なのです。

このような足跡は、別の鑑賞遊びの中でも同じように刻まれてきました。クレーの天使にげーむのーくんと付けられたこの名前は、「天使なぞなぞをしよう」という鑑賞遊びで生まれた小学１年生の児童作品です。天使の親指が、体の前に寄せられた両手から確かに伸びています。この小さな指の表情を、この子は見逃さなかったのです。そして伏し目がちに見えてしまう視線の先がそこにあることも。そのとき、彼はこの天使からこんなつぶやきを聞き出しています。もーいらいらするー。おかあさん、げーむしすぎたからこんどはべんきょうするー。

「鑑賞遊び」というコンパスを片手に、それぞれの作品世界を歩いてきた子どもたちは、こんなふうに自分の足跡を刻んでいきます。そして心と心を重ね合わせていくこのような鑑賞活動は、こんなクレーの言葉も思い出させてくれるのです。

「芸術は目に見えるものを再現することではなく、見えるようにするものである」

★地図を広げあって

シートを開ける（pp. 2-3）と、子どもたちの様々な交流の場が始まります。

考えて考えて、石になったんだ

「これは、何番を絵札にしてつくった読み札か考えてね」教室に静かな緊張感が走る瞬間です。たった１枚の読み札が投げかけられただけで、子どもたちの視線がぐっと本気で作品にせまっていきます。見知らぬ友だちが残した作品旅行の道筋を、丁寧にたどっていきます。他者の主観的な見方に寄り添って作品へ近づくこのプロセスは、自分に見えている作品世界を疑う行為であるのかもしれません。しかし、どの子どもたちも探し求めているものにたどり着こうと一生懸命です。同じルールで活動していることが、作品をよく知ろうとする共感的な眼差しへと高めているのかもしれません。

ながいもの　頭にのせて　おもたいな

子どもたちの声が一段と大きくなってくるのが、このグループでの「シーがる･た」です。自分がつくった読み札を誇らしく読む子ども。そしてその声にしっかりと耳を傾ける友だち。「９番かな。え、違うの・・・」小集団学習では、限られた時間のなかでも個々が活躍できる場を生み出すことができます。互いに同じルールを共有しているために、「読み札を聞く」「作品を見る」「互いの考えを伝え合う」「読み手の考えを理解する」といった手順を踏んだ相互作用の活動を子どもたち同士で促がしていくことができるのです。

作品との関わり方を提案する「鑑賞遊び」は、このように共有する仲間たちと同じリズムを鼓動させながら、地図を広げていくような鑑賞活動が生まれます。鑑賞遊びのルールが友の見方を受け入れようとする土壌やそれを豊かに耕していくルーチンも育み、主体的な鑑賞活動を支えてくれているのです。

★美術館での旅立ち

鑑賞遊びの目的と方法を手にした子どもたちが、新しい作品との出会いを求めて訪れた美術館。お気に入りの作品と向かい合うその眼差しは、声をかけるのもためらってしまうほど真摯で、しかも自信に満ちています。

自らが求めた作品世界の中で学びひたる子らと出会える美術館での旅立ちこそが、この「鑑賞遊び」の真骨頂なのかもしれません。創造を友とする 27 人の鑑賞者が、きっとそこで待っていることでしょう。